

ら い ぶ

Vol.27

ともに挑戦！

## CONTENTS

### 特集記事

女性や若者にとって  
魅力的な地域であるために



2026年2月  
山口市



# 女性や若者にとって魅力的な地域であるために 内閣府 地域における女性活躍・男女共同参画に関する調査結果より

急速に進行する少子高齢化や人口減少の中で、東京一極集中や、地方における生産年齢人口の減少等の課題に対応するため、女性や若者にとって魅力的な地域づくりを推進していくことが、今求められています。

一方で、近年、若い女性が地方から都市へと転出する傾向が強まっています。

地方は、女性が働くうえで仕事の選択肢が少ないこと、都市に比べて労働条件が良くないこと、固定的な性別役割分担意識や性差・年齢に対する思い込みが根強く残っているため閉塞感を持ちやすいことなどが、その主な原因と言われています。

若い世代が定住したくなる環境を実現することが、地域の活力を高めていくためには必要不可欠です。こうした問題意識のもと、内閣府により「令和6年度 地域における女性活躍・男女共同参画に関する調査」が行われました。

調査は、18歳から39歳までを対象に、インターネット・モニターに対するアンケートとして行われ、その結果については、内閣府男女共同参画局ホームページ（<https://www.gender.go.jp>）に詳細な報告書が掲載されています。今回は、その一部を抜粋してご紹介します。

象に、インターネット・モニターに対するアンケートとして行われ、その結果については、内閣府男女共同参画局ホームページ（<https://www.gender.go.jp>）に詳細な報告書が掲載されています。今回は、その一部を抜粋してご紹介します。

## 住んでいる地域に満足しているか

図1 調査では、若い世代が今住んでいる地域に満足しているかについて、男女別、出身地域別に結果が公表されていますが、全体的に地方出身・都会居住の女性で満足度が高い傾向があります。地方出身で、都会に居住している女性と地方に居住している女性を比較すると、特に「仕事の選択肢の豊富さ」「公共交通機関などの利便性」は、満足している人の割合の差が大きくなっています。

また、18～29歳の結果と比べ、30～39歳で差が大きい項目は、「多様な生き方・価値観の尊重」、「性別・年齢に関わらず活躍できる環境」と感じている割合は全ての項目で

出ていくつかの例を挙げ、その有無を出身地域別にみると、「あった」と感じている割合は全ての項目で

環境」、「地域の活気や賑わい」となっています。

## 出身地域を離れた理由

図2 次に、自らの意思によって出身地域を離れた場合の理由について見ると、女性も男性も、全ての区分で「希望する進学先が少なかった女性でその割合が高くなっています。

また、男女とも、希望する進学先や就職先の不足が、出身地域を離れる大きな理由となっている中で、女性は「都会へ転居」「地方へ転居」とともに、「地元から離れたかったから」という理由が上位に入っています。

## 性別による役割分担を感じるか

図3 性別役割分担意識についていくつかの例を挙げ、その有無を出身地域別にみると、「あった」と感じている割合は全ての項目で

地方出身の女性が高くなっており、都会出身の女性に比べ、それらを目の当たりにする機会が多かったことが分かります。

## 調査結果が示すこと

調査結果からは、進学や就職が若い世代が出身地域を離れる大きなきっかけとなる中で、特に女性には、性別役割分担意識や、伝統的な価値観が残る地元で生きづらさを感じて、都会へと転出している傾向をうかがうことができます。

報告書の分析によると、女性は、東京・大阪名古屋の三大都市圏で居住の満足度が高い傾向にありますが、「仕事」「生活上の利便性」「多様な価値観の尊重」について、特に東京圏（東京都及び神奈川県・千葉県・埼玉県）居住者の満足度が高くなっています。また、東京圏に転出した女性は、出身地域に性別による役割分担意識があったと感じている割合も特に高いことが確認されています。時代による意識の

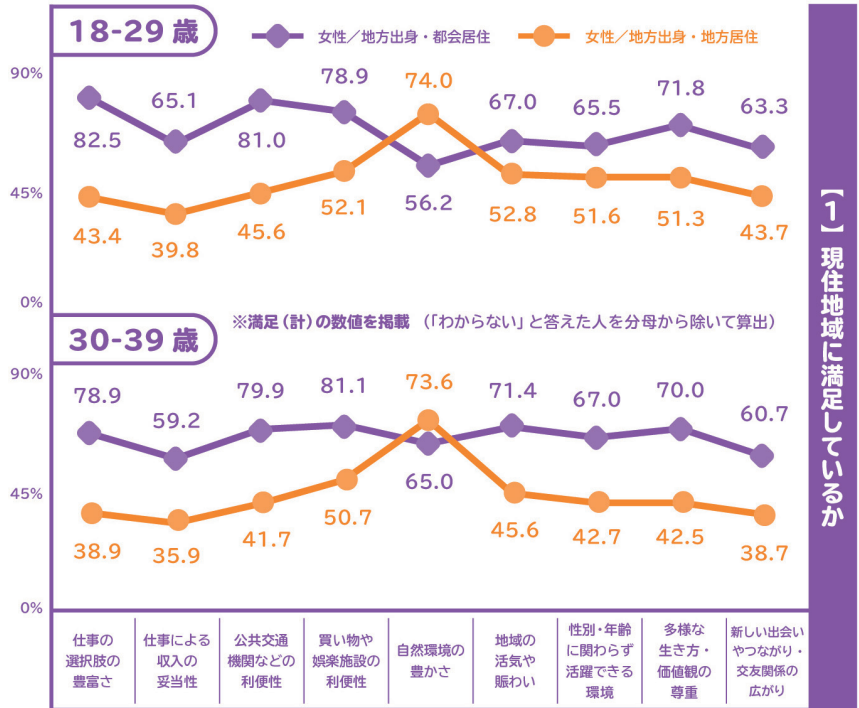
化により、全国的に性別役割分担意識は薄れてきていますが、東京圏に転出した女性は出身地域との違いを強く感じており、それが地元へ戻らない要因になっていると指摘されています。

一方で、東京圏以外の出身で現在東京圏に居住している若い世代の多くが、地元への愛着も持ち続けており、東京圏に住み続けたい意欲が決して高いわけではないことも、調査結果から明らかになっています。

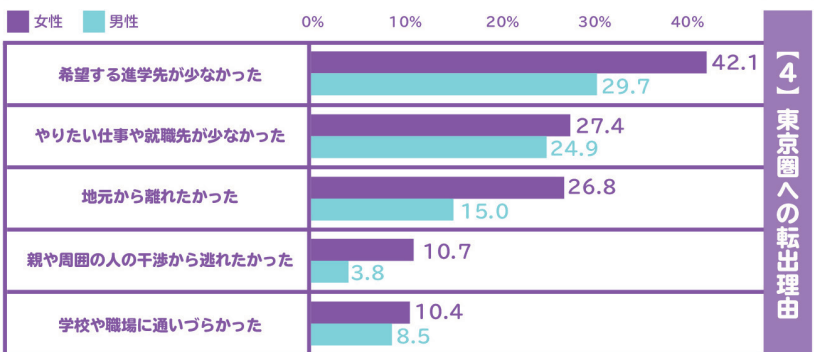
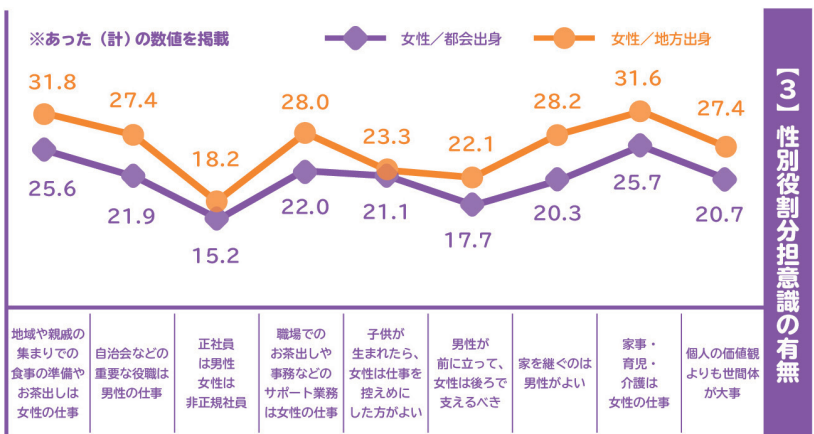
将来、地方に住みたいと考えている若い世代は、男女とも「ゆとりのある暮らしができそう」「自然環境の豊かさ」などをその理由に挙げています。一方で不安に思うことについては、仕事や経済面、生活の利便性に加え、特に女性では「人間関係や地域コミュニティ」も高くなっています。

地域における女性や若者の活躍や、地方への人材還流を促進するためには、女性や若者の希望に即した魅力ある地域づくりが求められます。そして、本調査の結果は、地方により色濃く残る性別役割分担意識の見直し、その際に重要であることを示唆しています。

※注 調査では、「都会」を東京都+政令指定都市、「地方」をそれ以外と定義



	都会へ転居	地方へ転居
	女性	
1位	希望する進学先が少なかった…35.0%	希望する進学先が少なかった…23.8%
2位	やりたい仕事や就職先が少なかった…22.6%	地元から離れたかった…15.7%
3位	地元から離れたかった…20.7%	学校や職場に通いづらかった…14.3%
	男性	
1位	希望する進学先が少なかった…29.2%	希望する進学先が少なかった…24.6%
2位	やりたい仕事や就職先が少なかった…21.9%	学校や職場に通いづらかった…16.8%
3位	学校や職場に通いづらかった…16.1%	やりたい仕事や就職先が少なかった…14.0%



※女性の回答率上位5項目を抜粋

山口市男女共同参画センターゆめぼらでは、性別や世代に関わらず、誰もが活躍する地域づくりについて理解を深めていただくため、県民活動団体「やまぐちネットワークエコー」との共催により、「地域における男女（とも）に活躍推進セミナー」を令和5年度より開催しています。昨年11月8日に開催した令和7年度のセミナーでは、山口大学で地域政策を学ぶ学生をはじめ、幅広い世代の参加者約60名が、多様な生き方や価値観を持つ住民の暮らしを支えるための地域づくりについて、現状と課題を学び、ともに考えました。



1



山口大学経済学部 鍋山祥子教授による講演ののち、防災のまちづくりと、不登校等の課題を抱えた子どもたちの居場所づくりに関する実践活動の報告を受け、それらをふまえて、「つながる」をキーワードに、課題解決のため具体的に何が必要か、また自分に何ができるのかを話し合うグループワークを行いました。成果発表では、各グループで出されたアイデアを参加者全員で共有しました。



やまぐちネットワークエコー代表  
西山香代子さん

令和7年度男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰を受賞

1993年に、山口県域で女性の社会参加を目的に学んだ仲間と会を立ち上げました。その後、社会情勢も大きく変化し、当時の男は仕事、女は家庭という性別役割分担意識は大きく変わりました。性別にとらわれず、各人の個性や能力に応じて、自分らしく生きることのできる社会を目指して、男女共同参画社会

の推進に向けた学びと活動に取り組んでいます。

私たちは、人口減少社会を迎え、子ども・若い世代が住みたくなる地域に、また、高齢になっても誰一人取り残されない地域にするための学習会を、継続して開催しています。この度のセミナーは、家族の姿の変化・多様化と、多様な住民と地域とのつながりの必要性について学び、これからの地域活動の在り方を深く考える場となりました。また当日は、大学生たちとも一緒に話し合い、世代間交流がこなにも楽しく心強いものか、改めて感じました。これまでとは違う視点で、子ども・若者・現役世代の活躍をどのように応援できるでしょうか。貢献寿命が健康寿命につながりますよう、更なる活動を続けていきたいものです。



# ★なでしこリーグに挑戦！ がんばれ!!レノファ山口FCレディース

伊藤 さくら

背番号：7 / ポジション：MF  
1998 年生まれ / 身長：156cm / 利き足：左  
2025 年：公式戦 23 試合中 20 試合出場  
8 得点 10 アシスト



田中 陽子

背番号：10 / ポジション：MF  
1993 年生まれ / 身長：156cm / 利き足：右  
2025 年：公式戦 23 試合全試合出場  
6 得点 10 アシスト



中国女子サッカーリーグ優勝と、なでしこリーグ2部参入おめでとうございます。まずは今の意気込みをお聞かせください。

伊藤 ここまで苦しい時期もありましたが、やっとこの2つの目標を叶えることが出来てよかったです。多くのご支援・ご声援が私たちの原動力となり、結果に結びつけることが出来たと思うので、チームに関わってくださった全ての方々に感謝したいです。カテゴリーが上がリ、壁にぶつかることもあると思いますが、新たな歴史を築き、サッカーを通じて山口を盛り上げていくことが出来るよう頑張りたいと思います。

田中 ありがとうございます！私は加入して一年目でしたが、有難いことに歴史を塗り替えた瞬間に立ち会うことができました。レノファに

てたくさんの方が応援、支援してくださっていること、期待してくださっていることを感じていたので、ともに掴んだ昇格は本当に嬉しいですね。今年は新たな挑戦になりますが、最高の結果を掴めるようにチーム一丸となって頑張りたいです。

伊藤選手は、2020年から所属され、昨シーズンは大切な試合でキャプテンも担われました。これまでに心に残った経験や、チームに対する思いなどを聞かせてください。

伊藤 小・中学生時代をこのクラブに育ててもらったということもあり、お世話になったクラブに対する想いは強く、恩返ししたいというのがチームに加入したきっかけでした。そこから仲間がたくさん増え、今では明るくて笑顔の絶えないチームになり、大好きなこのチームでもっと色んな景色を見たいという想いがより一層強くなりました。また、活動する中で、ファンの方などから「試合を見ると元気がもらえる」と言葉をいただいたり、子どもたちから「私もサッカーを始めたくなった」とい

う話を聞いたりしたことがあります。私たちのサッカーが誰かの心に届いていることを感じる事ができ、とても嬉しかったです。

田中選手は、日本・スペイン、韓国のプロリーグでプレーされ、日本代表としてもプレーされました。今、地元山口のチームを選ばれた理由を教えてください。

田中 なでしこリーグ参入をはじめ大きな目標に向かって、地元山口のレノファレディースに、今までの経験で積み上げてきた技術や精神力などで貢献したいと思いました。

田中選手は海外でもプレーされていましたが、日本との文化の違いで印象的だったことはありますか。

田中 実際に海外に住むと、文化の違いに驚くことが多かったんです。例えば私がスペインにいた頃は、女子サッカーの環境、最低賃金が労働組合の基準に満たない契約が多かったため、選手協会に協力してもらって選手自身が行動を起こし、実際に試合をストライキしたことまでありました。そして結果的に女子サッカー

の環境が良い方向に変わりました。韓国でも、選手が声を上げること、給与面などのルールが変わりました。

最後に、山口市民やファンに向けて、メッセージをお願いします。

伊藤 いつもたくさんの応援ありがとうございます。サッカーを通じて地域のみなさんとふれあい、地元を盛り上げていきたいなと思っています。私たちのサッカーでみなさんに笑顔や元気、感動をお届けられるよう頑張ります。引き続き応援よろしくお願いします。

田中 山口市民の皆さん、レノファファンの皆さん、いつもたくさんの方の応援ありがとうございます。故郷にプロサッカー選手として帰ってきて、地域の皆さんと様々な活動やチャレンジができることが嬉しいですね。山口の女性の力を全国に発信できるように活躍して、皆さんにパワーを届けることができるとともに頑張ります。これからも



© RENOFA YAMAGUCHI FC

© RENOFA YAMAGUCHI FC

表紙撮影：菓子合梨沙

編集・発行 山口市地域生活部人権推進課 〒753-8650 山口市亀山町2番1号 TEL 083-934-2784